

冬はともかく真夏の稽古後の正坐はことのほかきつく、それこそプールに飛び込んで水をたらふく飲みたいとの衝動に駆られます。(今このような稽古を行ったら次の日から生徒たちは、稽古に来なくなるでしょう。)

辞めるか続けるかと自問する日々でありましたが、当時の稽古はこのようなものだったと思います。社会人になってからも続けようという気持ちはありましたが、

- 沖縄(琉球)源泉の空手道であること。
- 古武道(武器術)を伝授してくれること。
- 自分の尊敬に値する“師”であること。

が条件でしたが、それこそ冒頭の言葉ではないですが、8年かかりました。



自分がもし横山 館長とお会いしていなければ、それこそつまらない人生を歩んでいたかもしれません。

横山 館長は、幼少の頃より剣道、柔道、空手道などの武道に親しみ始業をし、学生時代にはレスリング、ボクシングを学び、更に中国武術の修行の為に台湾に渡り、帰国後沖縄小林(しょうりん)流の門を叩きその後米国人空手家の招待を受けサンフランシスコへ渡り米国における各武道大会にて多くの優勝を収め1985年に現在の拠点でありますテキサス州ヒューストン市に移り、従来の古典的沖縄小林流空手道と琉球古武術に加え、新たな稽古法、試合方法等をふまえ万人開門の精神を持って学ぶ空手道“沖縄小林流空手道 研心会館”を設立されました。

最近までAAU(アマチュア・アスレチック・ユニオン)の会長兼空手道技術部長の要職にあり、現在は北米空手道師範会の理事も務められていますが、“空手道”を教える為に生まれてきた方です。(もちろんアマチュアではありません、プロフェッショナルです。)

館長は、ヒューストン在住ですので常時指導は受けられませんが、館長の直弟子に教えてもらってましたが、一年後からは、毎年は無理としても2年おきにヒューストン本部道場に出向き米国の生徒と汗を流しております。だいたい6月頃に行きますが既に暑く、外で20分以上歩くものなら、脱水症状になります。ビールとステーキはとても美味しく空も真っ青できれいです。

“あることをきわめることは、どれだけ大変ですごいことであるか”— 横山 館長の指導を受け、話を聞いておりますとこのことを思います。

修行時代の話を聞くたびに自分が感じたことは“量をやらなければ、質に転換できないのだ。量満ちて質”と。

このスピード時代に長い年月をかけて鍛錬をやってては、年を取るだけだという人もいますが、年月をかけなければ出来ないこともあります。

館長から、このようなことも聞きました“無駄を省け、無駄を省けといっても実際に無駄をやった人ではないと無駄は、省けないでしょう”と。

横山館長は、仮に他の分野においても成功される方だと思います。

30歳後半になって自分自身の修行はもとより、この素晴らしい空手道を教えたいという気持ちが出てきて、正式に指導員として教え始めて15年が経ちましたが、まだまだ横山 館長から学ばなければならないことは、山ほどあります。

自分も仕事ではまだ現役ですので、平日は教室を開くことは無理ですが、毎週土曜日横浜で、小学生から社会人まで教えております。